



△ピース・シーズ
平和や命の大切さをいろんな視点から捉え、広げていく「種」が「ピース・シーズ」です。世界中に笑顔の花をたくさん咲かせるために、ジュニアライターの中学、高校生の21人がテーマを考え、取材し執筆しています。

第62号 「平和カフェ」から発信

平和記念公園に近い広島市中央区王橋町のビルに、ソーシャルブックカフェ「ハチドリ舎」がオープンして1年余りがたちました。被爆者と同じテーブルを囲んで体験を聞き集いや、途上国支援や平和教育を考える交流会などが開かれています。

木材を多く使った温かみのある空間で、お茶を飲みながら誰でも気軽に交流することができ、海外の平和活動家や外国人観光客が訪れることも多く、国籍や年代を問わず、幅広い層が集まる平和発信の新しい拠点になっています。

ハチドリ舎店主の安彦恵里香さんは、昨年ノーベル平和賞を受賞した国際非政府組織(NGO)核兵器廃絶国際キャンペーン(I-CAN)のパートナー団体「プロジェクト・ナウ」の代表を務めています。広島で平和カフェをなぜ開いたのでしょうか。

■店主・安彦さんに聞く

「語の部さんとお話しし、何を考えているのかをしっかりと」と語る安彦さん(撮影・伊藤淳仁)



「語の部さんとお話しし、何を考えているのかをしっかりと」と語る安彦さん(撮影・伊藤淳仁)

「語の部さんとお話しし、何を考えているのかをしっかりと」と語る安彦さん(撮影・伊藤淳仁)

気軽に交流 思いつなぐ



堀江さんと佐々木さんのお話を聞くワイヤーさん(撮影・松崎成穂)

ハチドリ舎では、毎月「6」の日に「語り部さんとお話ししよう」と呼びかけ、被爆者や被爆体験伝承者と同じテーブルに座り、体験を聞く会を開いています。

毎月「6」の日 被爆体験聞く会

「話しながら相手のペースに合わせてしっかりと伝えられる」と佐々木さん。世代や国籍を超え、誰でも被爆者とながれる場はとても魅力的です。カフェをきっかけに、原爆や平和に関心を持つ人が増えてほしいと感じました。(高3松崎成穂)



「イベントで何を伝えたいのかをしっかりと」と語る安彦さん(撮影・伊藤淳仁)

「話しながら相手のペースに合わせてしっかりと伝えられる」と佐々木さん。世代や国籍を超え、誰でも被爆者とながれる場はとても魅力的です。カフェをきっかけに、原爆や平和に関心を持つ人が増えてほしいと感じました。(高3松崎成穂)

「話しながら相手のペースに合わせてしっかりと伝えられる」と佐々木さん。世代や国籍を超え、誰でも被爆者とながれる場はとても魅力的です。カフェをきっかけに、原爆や平和に関心を持つ人が増えてほしいと感じました。(高3松崎成穂)

「話しながら相手のペースに合わせてしっかりと伝えられる」と佐々木さん。世代や国籍を超え、誰でも被爆者とながれる場はとても魅力的です。カフェをきっかけに、原爆や平和に関心を持つ人が増えてほしいと感じました。(高3松崎成穂)

「話しながら相手のペースに合わせてしっかりと伝えられる」と佐々木さん。世代や国籍を超え、誰でも被爆者とながれる場はとても魅力的です。カフェをきっかけに、原爆や平和に関心を持つ人が増えてほしいと感じました。(高3松崎成穂)

■ジュニアライター

トークイベントに挑戦

私たちも10月27日に「Talk with ジュニアライター」10代のヒロシマ記者と話をしよう」というイベントをハチドリ舎で開きました。ジュニアライターならではの経験を伝えたいと、トークイベントを開くことにしました。



ジュニアライターが企画したトークイベントの様子

こんなイベントあったらいいな...

◇平和をテーマにした音楽コンサート
「アオキリのうた」などを合唱する。歌詞を募集し、オリジナルの平和の歌を披露する。(高3松崎成穂)

◇折り鶴アート制作
参加者と一緒に、折り鶴でいろんなアート作品を作る。(中3平松帆乃香)

◇作ってみよう 平和の絵本
グループに分かれて被爆体験や平和に関する絵本を作り、読み聞かせをする。その様子をインターネットにも掲載。(高2藤井志穂)

◇10代の平和会議
ピース・シーズでこれまで取り上げた話題を紹介し、中学生に伝えたいことを話し合う。(高1伊藤淳仁)

◇出張版「この一作」
ジュニアライターが選んだ平和に関する本の紹介。(高1佐藤茜)